

地域の農家に農業者年金をPRし加入推進を図る

橿原市農業委員会

1. 橿原市の概要

橿原市は、奈良県のほぼ中央に位置し、東西7.5km、南北8.3kmの広がりを見せ、東は桜井市、西は大和高田市、南は高取町・明日香村、北は田原本町と接しています。面積は39.52km²で、全体的に起伏が少なく、市内の中央部には飛鳥川、西には曾我川が流れています。また、万葉の時代を偲ばせる大和三山（畝傍山：標高199m、耳成山：139m、香具山：152m）がそびえ、その中央には約1300年前にわが国初の首都であった藤原宮跡があります。その他、市内には歴史的文化遺産が点在しています。鉄道網ではJRと近鉄が縦横に走り、あわせて13の駅があり、また国道24号・165号・169号と道路網も発達し、大阪からは30～40分、京都からは約1時間、関西国際空港からは約1時間、名古屋からは約2時間と交通の便も良く、古代から交通の要となっています。

農業を取り巻く環境については、本市の農業は水稲に加えて都市近郊農業として施設栽培を取り入れ、特に、いちご・グリーンアスパラ・鉢花を主要作物とした農業が中心になっている。また、本市は都市化の進展が著しく、農地のスプロール化、農村における混在化及び兼業化が進み、農業生産に対する意識の変化等により農業生産をめぐる良好な環境の維持が困難になりつつあり、経営規模も零細で農地の賃貸借による経営規模の拡大もほとんど進んでいないのが現状であります。また、本市の農業の基本方向は都市近郊の有利性を生かし、施設園芸農業中心に生産性、収益性の高い近代的農業の確立、担い手の育成等積極的に促進しています。



2. 農業委員会の取り組み

橿原市農業祭に「農業者年金相談窓口」を開設

平成21年12月5日（土）・6日（日）の両日市内の農産物の普及と品質向上、農産物の市民への消費拡大を目的として、第39回橿原市農業祭・第54回農産物品評会が橿原市中央公民館で開催されました。天候にも恵まれ品評会には400点近くの出品があり、入場者も4,000余名を数えました。そのような状況のなか橿原市農業委員会では、地域の農家に農業者年金をPRする絶好の機会と捉え、農業者年金の加入推進を図るべく農業相談コーナーに「農業者年金相談窓口」を開設しました。橿原市では現在農業者年金加入者が「0」であるためなんとか新規加入してもらうための制度のPRやパンフレットの配布を行いました。

本市農業委員会の上田逸朗会長は、「農業者年金は農家にとって非常によい制度であり自信をもって薦められるがまだまだPRが足りないのが現状。地域の農家に制度の理解が浸透すればもっともっと加入が進むはず。」と今後の加入推進に期待を寄せています。

